

News Release

『スマートフォンの使用マナー』をテーマとした作品 6年連続でトップ

新たな交通安全トピックス“あおり運転”を題材としたポスターも登場！

～ 平成30年度JA共済交通安全ポスターコンクール 全国作品テーマ分析レポート ～

JA共済連が主催する「第47回JA共済 全国小・中学生 交通安全ポスターコンクール」には、16万2,262点の応募があり、全国コンクールでは各都道府県から選出された優秀作品350点の審査を行いました。本会では、平成16年度から、全国コンクール審査作品のテーマを集計し、小・中学生が、今、どのような視点から交通安全を捉えているのかを分析しています。

本年度も、社会を鋭く見つめた示唆に富む結果がまとまりましたので、ご報告します。

■ 『スマートフォンの使用マナー』に関する作品が構成比17.1%でトップ(6年連続)

本年度の全国コンクール審査作品を分類すると、『スマートフォンの使用マナー』を呼びかける作品が6年連続で最多テーマとなりました。

学年別に見ると、小学校低学年では2.5%(作品点数3点)、高学年では18.6%(同22点)、中学生では30.7%(同35点)と学年が進むにつれて増えており、特に小学校高学年では、前年度の11.7%(同13点)から大きく伸長しています。

これらのポスターの訴求対象を見ると、前年度は運転中の通話・メールに注意を促す作品が42.0%であったのに対して、本年度は、「歩行者」が53.3%、「自転車」が25.5%、「自動車」が18.8%と、半数以上が“歩きスマホ”への注意喚起を題材としています。

内閣府が本年2月に実施した調査※によると、小学生のスマートフォン所有率は、平成24年度の2.1%が29年度には29.4%と5年間で14倍に増加しています。一昔前は、大人たちに向けて注意していたスマートフォンの使用マナーも、今や自転車マナーなどと同様に、子どもたち自身も気を付けるべき身近な交通安全の話題に変化していると言えます。

※ 内閣府：平成 29 年度 青少年のインターネット利用環境実態調査 調査結果（速報） 平成 30 年 2 月



〔中 2 作品〕

■ 痛ましい事故を受け、「あおり運転禁止」を訴えるポスターが登場

昨年6月、神奈川県内の高速道路で悪質なあおり運転を受け、ワゴン車に搭乗していた4名が死傷するという痛ましい事故が発生しました。

子どもたちもこの悲惨な交通事故に敏感に反応し、本年度の訴求テーマ分析では、『飲酒運転禁止』8.9%(同31点)や『安全運転(思いやり運転)』5.4%(同19点)など、従来からあるドライバーに呼びかける交通安全ポスターに、『あおり運転禁止』2.3%(同8点)が新たに登場しました。

子どもたちは、その小さな眼差しで、交通安全に関する社会の動きをつぶさに観察し、ポスターに反映していることがうかがえます。



〔小 6 作品〕

◇ “歩きスマホ禁止”を訴える作品〔抜粋〕



〔小 4 作品〕



〔小 6 作品〕



〔中 2 作品〕

※農林水産大臣賞 受賞作品

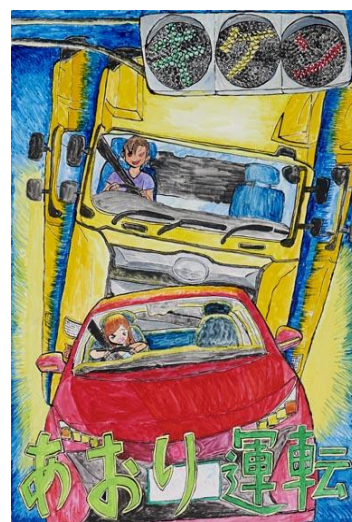
◇ 新たなテーマ『あおり運転禁止』を題材とした作品〔抜粋〕



〔小 2 作品〕



〔小 6 作品〕



〔小 6 作品〕

※農林水産大臣賞 受賞作品

◇ そのほか、視点の特徴的な作品〔抜粋〕



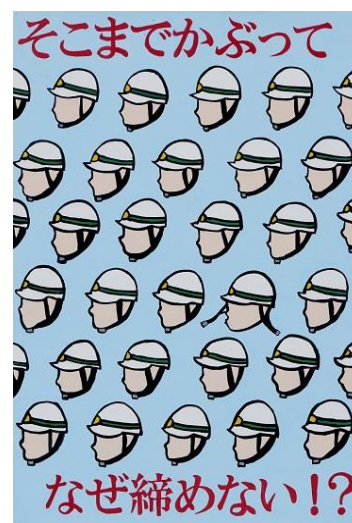
〔小 5 作品〕

※内閣府特命担当大臣賞 受賞作品



〔小 6 作品〕

※文部科学大臣賞 受賞作品



〔中 2 作品〕

＜交通安全ポスターコンクール 訴求テーマ第1位と社会の動き(過去10年間)＞

交通安全ポスターコンクール分析からは、子どもたちが、その時々交通安全に関する旬のテーマに非常に敏感であることがわかります。子どもたちが指摘する“今、最もホットな交通安全の課題やテーマ”を参考にしながら、交通安全に努める必要があります。

年度	最も多かった訴求テーマ	社会の動き
平成30年度	「スマートフォンの使用マナー」	「iPhone」(iPhone3G)が日本に初上陸した 2008 年から 10 年経過。その間、パソコン並みのインターネット機能を備えているほか、文字や写真でコミュニケーションを図るという新たな文化も定着した。基本機能である「通話」に加えて、「見る」「聴く」「入力」などの動作も加わったスマートフォンは、利用方法によっては、道路上や交通施設などにおける事故危険性も高く、引き続き、各種企業・団体による啓発活動が行われている。
平成29年度	「スマートフォンの使用マナー」	注目されやすい画像・動画を撮影しSNSに投稿するため、“ながらスマホ”による事故が急増したほか、高齢者ドライバーが関連した交通事故や、“あおり運転”による事故が報道で大きく取り上げられた。
平成28年度	「スマートフォンの使用マナー」	スマートフォン用アプリで人気キャラクターゲームが配信。大人を巻き込んだ社会現象となる反面、そのマナーが度々指摘された。
平成27年度	「スマートフォンの使用マナー」	“ながらスマホ”が社会問題として定着。警察、鉄道各社、携帯電話各社等、様々な企業・団体が啓発活動を展開。
平成26年度	「スマートフォンの使用マナー」	前年度に引き続き、歩きながら、自転車に乗りながら等のスマートフォン、携帯電話等による事故が相次ぐ。東京消防庁は『年々増加傾向にある』とHP上で注意を促す(H26.3)
平成25年度	「スマートフォンの使用マナー」	携帯画面を見ながら歩く、“歩きスマホ”を原因とした交通事故やホーム転落事故が発生し社会問題化。
平成24年度	「安全運転」「思いやり運転」	暴走自動車が行き止まり事故が多発。京都府亀岡市では乗用車が集団登校中の小学生の列に突っ込み10名が死傷する事故が発生。
平成23年度	「自転車マナー」	違法自転車「ピスト」による事故が急増。警察庁が「自転車総合対策」を発表(H23.10)
平成22年度	「携帯電話の使用マナー」	スマートフォンがヒット商品に。「運転中の携帯電話使用」の摘発件数が増加。
平成21年度	「自転車マナー」	健康志向・エコを背景とした自転車人気と自転車と歩行者の接触事故増加。
平成20年度	「後部座席のシートベルト着用」	後部座席シートベルト着用の義務化(H20.6 施行)

【詳細データ】平成30年度（第47回）交通安全ポスターテーマ集計表

テーマ	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	合計	%
スマートフォンの使用マナー	0	1	2	5	8	9	7	14	14	60	17.1%
飲酒運転禁止	1	0	1	1	7	5	5	7	4	31	8.9%
手を挙げて渡ろう	13	8	5	1	0	0	0	0	0	27	7.7%
よく見て渡ろう	8	6	2	4	1	1	1	0	1	24	6.9%
信号守ろう	4	2	2	4	1	3	4	1	0	21	6.0%
安全運転（おもしろいやり運転）	2	2	2	4	3	4	1	0	1	19	5.4%
ヘルメット着用	2	2	8	0	0	2	1	2	1	18	5.1%
シートベルト・チャイルドシート着用	2	5	2	1	2	2	1	0	0	15	4.3%
反射板・明るい色の服の着用	1	0	2	3	4	0	2	3	0	15	4.3%
交通ルールを守ろう	1	3	3	1	1	0	0	1	3	13	3.7%
飛び出し禁止	2	1	0	1	1	2	3	2	0	12	3.4%
無灯火危険・早めのライト点灯	1	0	1	1	2	3	0	1	2	11	3.1%
雨の日（雪の日）は気を付けて	0	2	3	2	1	1	1	0	0	10	2.9%
自転車も車両	0	0	0	1	2	1	2	1	2	9	2.6%
あおり運転禁止	0	1	0	0	1	3	2	1	0	8	2.3%
交差点・曲がり角に注意	0	0	1	2	1	0	1	0	2	7	2.0%
自転車は正しく乗ろう	0	1	0	0	0	0	1	1	2	5	1.4%
一時停止を守ろう	0	1	1	1	0	0	1	0	0	4	1.1%
高齢者運転・免許返納	0	0	1	1	1	0	0	0	1	4	1.1%
スピード出しすぎ注意	0	0	0	2	0	0	1	1	0	4	1.1%
無理をしない・早めの休憩	0	0	1	0	0	0	0	2	1	4	1.1%
その他	1	4	4	4	4	3	4	0	5	29	8.3%
計	38	39	41	39	40	39	38	37	39	350	100.0%

※構成比につきましては、表示単位未満を四捨五入して表示しています。